

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 08年9月

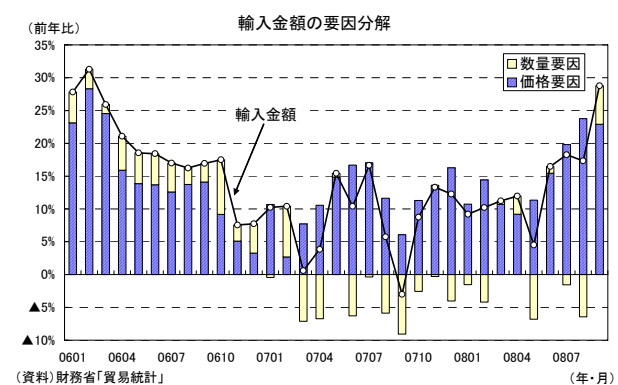
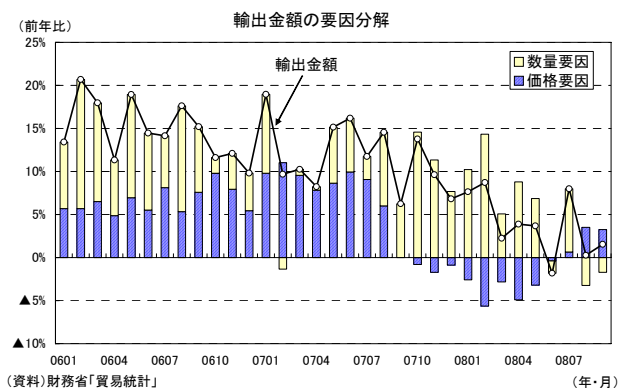
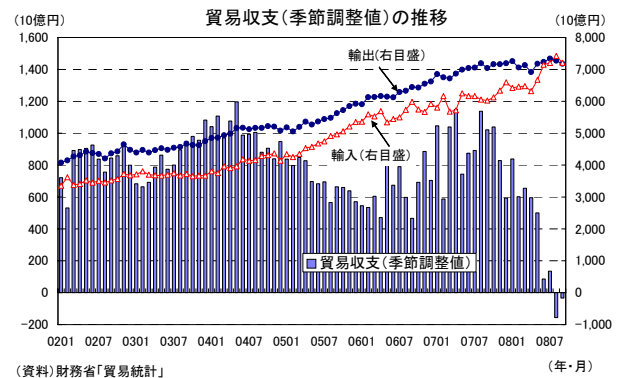
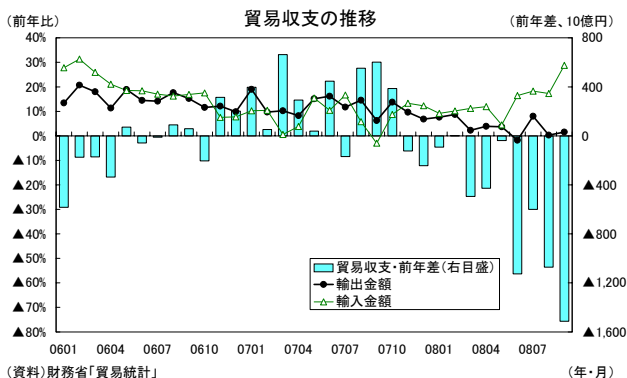
～貿易収支(季節調整値)は2ヵ月連続の赤字

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支(季節調整値)は2ヵ月連続の赤字

財務省が10月23日に公表した貿易統計によると、9月の貿易黒字は951億円となり、8月の▲3,276億円の赤字から黒字に転換した。しかし、前年比では▲94.1%の大幅減少となり、黒字額は市場予想(ロイター集計:6,000億円、当社予想は4,354億円)を大きく下回った。また、季節調整済の貿易収支は▲330億円と、2ヵ月連続で赤字となった。



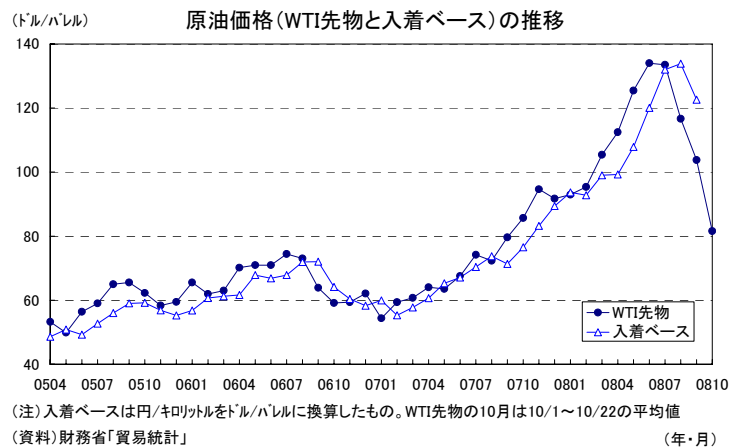
輸出価格は前年比3.3%(8月:同3.6%)と3ヵ月連続で上昇したが、輸出数量が前年比▲1.7%(8月:同▲3.2%)と2ヵ月連続のマイナスとなったため、輸出金額は前年比1.5%(8月:同0.3%)の低い伸びにとどまった。

原油価格の下落に伴い輸入価格は前年比22.3%(8月:同24.5%)と伸びが若干鈍化したが、輸

入数量が前年比5.3%(8月:同▲5.7%)と3ヵ月ぶりの増加となったため、輸入金額は前年比28.8%(8月:同17.3%)と伸びが大きく加速した。なお、輸入数量は比較的高い伸びとなったが、今年の9月は平日(月～金)が昨年よりも2日多く、通関日数が多かったことも影響している可能性があることには留意する必要がある。

通関(入着)ベースの原油価格は8月の1バレル=130ドル前半から9月には120ドル前半へと大幅に低下したが、WTI先物の価格に比べると高止まりしている。これは、通関(入着)ベースの原油価格はWTIに遅れて動く傾向があるためであるが、WTIは10月に入りさらに大きく下落しているため、入着ベースの原油価格も下落が続き、輸入価格の上昇率は一段と低下することが見込まれる。このため、現時点では貿易収支の赤字が定着するとは見ていない。

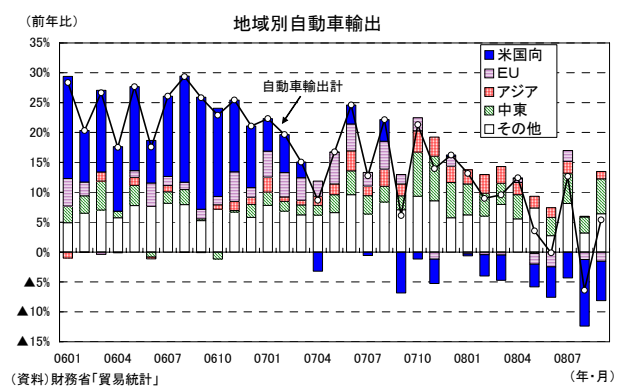
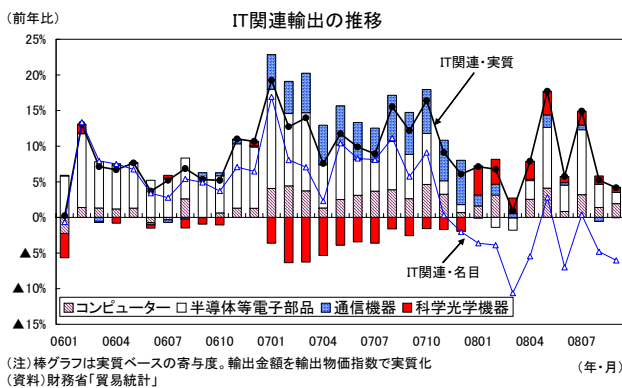
ただし、ここに来て輸出の減速が鮮明となっているため、輸出の低迷と輸入価格の上昇率低下が綱引きする形で、貿易収支は低水準で推移することが予想される。



2. アジア向け輸出が急減速

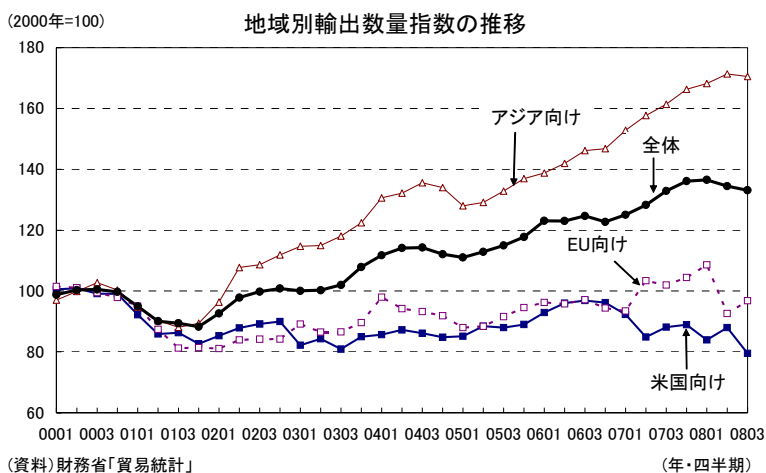
輸出の内訳を見ると、IT関連品目では、コンピューター(名目・前年比▲15.9%)、コンピューター部分品(同▲4.4%)、通信機(同▲8.3%)、半導体電子部品(同▲6.6%)、科学光学機器(同▲0.7%)のいずれもが金額ベースで減少し、全体では前年比▲6.0%の減少となった。IT関連品目は価格の大幅な下落により実質の伸びは押し上げられているものの、8月の前年比5.2%に続き9月も同4.2%の低い伸びにとどまった。

自動車輸出は前年比5.4%(8月:同▲6.4%)と2ヵ月ぶりに増加とした。中東向け(前年比58.9%)、ロシア向け(同66.5%)、アジア向け(同16.0%)は高い伸びを維持したが、米国向け(同▲18.2%)、EU向け(同▲11.1%)が全体の足を大きく引っ張っている。



9月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けは前年比▲8.9%（8月：同▲16.9%）と減少幅が縮小したが、EU向けが前年比▲12.0%（8月：同▲3.3%）と減少幅が拡大し、アジア向けの減速傾向（7月：同11.5%→8月：同4.3%→9月：同1.1%）が鮮明となってきた。

7-9月期の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比▲9.6%、EU向けが同4.5%、アジア向けが同▲0.5%、全体では同▲1.0%となった（4-6月期は同▲1.5%）。EU向けは2四半期ぶりに増加したが、4-6月期の落ち込み（前期比▲14.7%）を取り戻すまでには至っておらず、基調としては低調な動きが続いていると判断される。また、アジア向けの輸出数量が前期比で減少したのは05年1-3月期以来14四半期ぶりである。米国の景気悪化の影響が世界経済全体に波及していることを示したものと言えよう。



3. 7-9月期の外需寄与度はほぼゼロに

9月までの貿易統計と8月までの国際収支統計の結果を踏まえて、7-9月期の実質GDPベースの輸出入を試算すると、輸出、輸入ともに前期比1%程度の伸びとなり、外需寄与度は前期比ではほぼゼロとなることが見込まれる（4-6月期は前期比▲0.1%）。輸出入ともに2四半期ぶりの増加となるが、4-6月期が前期比で2%を超える大幅な減少となったことを考慮すると、実勢としては、海外経済の減速を背景とした輸出の停滞、内需低迷を主因とした輸入の弱含みが続いていると判断される。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。